

平成 29 年度 第 2 回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 平成 30 年 3 月 16 日 (金)
14 : 00 ~ 16 : 15 まで
場 所 志摩市役所 4 階 401 会議室

出席者 (順不同・敬称略)

- (1) 審議会委員 (16 名)
牧谷拓、城山秀治、柴原行正、岩崎恭彦、齋藤平、岩田てるよ、庄山敏一、尾間正美、東川清加、石田美奈子、岡茂、井上摩紀、寺口寛治、前田勲、長濱彰則、古閑秀作
- (2) 志摩市長 竹内千尋
- (3) 事務局 (5 名)
三橋哲雄、澤村博也、東桂一、城山尚史、大屋正勝

傍聴者…12 名

事項書 1. あいさつ

【事務局】

それでは時間となりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。それでは、只今より平成 29 年度第 2 回志摩市地方創生審議会を開催したいと思います。開催にあたりまして、竹内市長よりご挨拶させていただきます。

【竹内市長】

皆さん、こんにちは。今日は第 2 回の地方創生審議会ということで、皆様方におかれましては大変お忙しい中、また雨の中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。今日はですね、志摩市の小学校の卒業式ということで、私も朝から浜島小学校の卒業式に行きまして参りました。浜島小学校出身の方もいらっしゃいますけれども、浜島小学校では卒業生 17 名ということで、ちょっと少ないですね。これが中学校に上がって 3 クラスということになるので、地方創生を頑張らないといけないなど改めて実感しました。

その後ですね、志摩地中海村のリニューアルオープンということで、その祝賀会ということで参加してまいりました。新しく結婚式ができるスペースと、それから温浴施設ということでスパが新しくオープンするというごさまで、関係者の皆様とともに施設を見せてもらいながら祝賀会に臨んだということごさです。そういった新しい観光施設が出来たり、先だつては志摩観光ホテルのラウンジクルーズということで英虞湾を活用して宿泊客の皆様が英虞湾の景色などを楽しんで頂きながら、周遊できる小型ボートのサービスを始められるということで、志摩市においても新しい観光施設の取り組みが始まってきているということごさです。

さらにですね、先だつては食の取り組みということで、志摩市は伊勢志摩サミットが開催されてポストサミットに力を入れていかないといけないということで、実は伊勢志摩サミットにおいては、持続可能な開発目標というのが 2015 年の国連で定められました。その略で SDGs と呼

ばれていますけれども、そのことが日本で初めて、あるいはG7の首脳同士で初めてそのことが確認されたという、大変意義深いサミットでもありました。我々、志摩に暮らす人間として、伊勢志摩サミットのことも含めて持続可能な開発ということについて、しっかりと力を入れていかないといけないと思っています。その持続可能な開発目標の14番目が、豊かな海を作ろうという目標を掲げておられて、先だつては東京大学の先生達が和具の伊勢えび漁のことで研究に入られておるということで、いろいろお話をしておりましたら、漁法が共同操業ということで漁をしたものを均等分配するというかたちで、乱獲をせずにみんなで分かち合つて、そのことが結局です、5艘出ている船を1艘にして、船頭さん達が一緒に乗って漁をするということなので、網の傷みも少なかったり、船の燃費の部分でも1/5になったりということでコストを削減しながら、しかしながら漁獲高は増やしているということで、いわば持続可能な、サステナブルシーフードと呼ばれていますけれども、そういった日本でもほとんど例のない取り組みで、世界でも例を見ない、そういった取り組みが非常に珍しいなということでありまして、いわばそのことを捉えながらしっかりと一次産業の支援を行っていきたいというふうに思っています。

その地方創生を考える意味でも、現在の志摩市の一次産業の状況というのは、最新の国勢調査においては漁業者が1,500人、農業者が500人という状況でして、前の国際調査の時に比べると半減しておるという状況でございます。従いまして、そういったことも含めまして、担い手でありますとか、後継者の対策であるとか、あるいは先ほどのSDGsといった資源管理型漁業をこの地域の皆さんというのはしっかりと取り組まれていますので、我々はそれを全体的に色々な方々と繋ぎながら、さらにそのことによってそこに価値があると言う、価値創造を行いながら価格の上昇であったりとか、あるいは単に価格というだけでなく、その漁をしている漁師さんのストーリーだとか、あるいは持続可能な漁業をしているという価値そのものを認めてもらって、志摩の海老であるとか水産物を選んでもらえるような、そんな事もしっかりと考えていきたいというふうに思っております。

今日はですね、来年度に向けて、そういった取り組みを食材、食文化に関する施策でありますとか、地域の特色であるとか強みをさらに活かした地方創生を進めていく、そのためには地元の住民や市外の方の協力を頂きながら取り組むということが必要であるということでありまして、皆様方におかれましては、それぞれの立場から是非有意義なご議論をいただき、意見交換を含めてしていただき、地方創生についての取り組みをしっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。冒頭の挨拶に代えさせていただきます。宜しく願い致します。

【事務局】

市長はこの後、公務のためここで退席させていただきます。

(竹内市長退席)

【事務局】

それでは、開催に先立ちまして、本会の成立に関してご報告申し上げます。志摩市地方創生審議会委員は20名で、本日まで出席の委員が15名(※)となっております。志摩市地方創生審議会条例第5条第3項の規定により、委員の半数以上の出席があるため本会議は成立したことをここに報告させていただきます。(※1名遅刻のため、最終16名)

それでは、議事に入りたいと思います。志摩市地方創生審議会条例第5条第2項の規定によりまして、審議会の会議の議長は会長がなるとしておりますので、ここからの進行は岩崎先生にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【岩崎会長】

皆さん、こんにちは。年度末で大変お忙しいところ、またお足元の悪い中、沢山の方にご参集いただき、どうもありがとうございます。本日も円滑に進めてまいりたいと思いますので、どうぞ協力のほどよろしくお願いいたします。冒頭、議事進行について少し整理させていただきたいと思います。前回の審議会におきましては、私の不手際もございまして少し議論が色々と停滞したりもいたしました。改めてお詫び申し上げたいと思います。とりわけ、前回ご発言いただけなかった方につきましては、心よりお詫び申し上げます。

そこで事前にですね、事務局と打合せをさせていただきまして、本日の議事はこのように進めさせていただきたいと思います。基本的には事項書に沿って議事を進めてまいります。2の議事の(1)ですが、これは報告事項ですので、29年度の具体的な施策の進捗について、まずは報告を一通りいただくというかたちで進めてまいりたいと思います。(2)、(3)は審議事項ですので、今回の改訂、そして次年度の事業計画案についてこの通り進めていくことに支障がないかどうか、皆さんそれぞれの立場、目線から見ていただき、もし支障がないということでしたらこれで進めていくことについて審議会としてご了承賜りたいというふうに思っております。

ここまではこのようなかたちで資料に沿って議事を進めさせていただき、資料に関して質問、疑問等ございましたらいただく、そういうかたちで進めてまいりたいと思います。他方(4)のその他については、皆様から色々と自由にご発言いただく、そのような時間として確保したいと思いますので、色々この間お気づきのこと、お考えのことはあろうかと思っておりますので、是非それらについてはその他のところでご発言いただきますようよろしくお願いいたします。

というようなかたちで進めさせていただきたいと思います。それでは早速議事に入らせていただきたいと思います。議題の1つ目、平成29年度具体的な施策の進捗について事務局より説明をお願いいたします。

事項書2 (1). 平成29年度【具体的な施策】の進捗について

【事務局】

よろしくお願いいたします。資料は事前に郵送させていただいておりますが、本日お持ちいただいておりますでしょうか。当日配布資料としましては、事項書と資料5と6ということで2部用意させていただきました。事務局の不手際もありまして、実は資料番号の5と6が入れ替わっております、申し訳ございません。資料番号5のほうが、志摩市創生総合戦略に記載された具体的な施策の事業計画ということで、こちらは前回の審議会の中で委員さんの意見で各政策分野ごとの予算・決算を確認したいというご意見がございましたので、29年度と30年度の予算を比較できるようなかたちの資料を作らせていただきました。それから資料6のほうが、28年度の前回お渡しさせていただきました実績報告の予算・決算を政策分野ごとにまとめさせていただいたものです。これらは追加資料ということで、お示しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それから、前回、グラフ等での表記の話もございましたが、そちらにつきましては29年度の実績報告が出た

段階で28年度の実績報告と比較できるかたちにグラフ化してお示しさせていただこうかと思しますので、その辺は御了解いただきたいと思います。

それでは、早速ですが事前にお配りさせていただいております、資料1の本年度の取り組み状況について少し説明させていただきたいと思います。前回もこの資料をお渡しさせていただきましたが、少し資料が多くなってしまいまして十分に説明が出来なかったということで、本日はここについては時間をかけて、今年度どのようなことをしてきたのか説明させていただき、ご確認させていただきたいと思います。

(事務局より、**資料1**に基づき説明)

【岩崎会長】

ありがとうございます。次と次の議題ですね、総合戦略の改訂、そして平成30年度の事業計画案についてご議論いただき、その前提として本年度どのような事業が行われていたのかということについての説明を一通りいただきました。事業の進め方や改善の仕方についても、おそらくご意見があろうかと思いますが、それについては次と次の議題にいただくということでお願いしたいと思います。ここでは只今の説明について疑問に思われた点ですとか、もう少し丁寧な説明を求めたいというようなリクエストがありましたら、ご発言いただければと思いますがいかがでしょうか。

【寺口委員】

詳細に説明されるということで聞いてましたら、まあほとんど記載の通りの説明だったんですが、例えば、茶々を入れるつもりは全くないんですが、とにかくよく頑張ってるなというふうな目では見ているんですが、例えで言わせてもらおうと、1-2の事業(介護予防ボランティアでポイント事業)なんていうのは活動日数か何か目標値、評価的なものになっていると、でもその記載がありません。1-3(がんばる市民を応援する事業)は3件補助金を出しましたよ、でもどういう、9つあるんですよ、補助の対象がね。どれに3件出されたのかなとか。1-4(地域とのつながりによる県立高校の魅力向上事業)なんかはカツオの解体ショーは28年にはイオンの阿児と伊勢でやりましたよ、でも29年度はどこでやったんでしょうかね、であるとか。飛びますけど、2-6(若者の集いと出会いの支援事業)なんかは、目標値はその参加人数ということで評価対象になっているものが、人数が全く出ておらないとかね。2-8(若者世代の移住促進事業)なんかは、一次産業へは何人とか、もっとそういう突っ込んだ報告をいただけたらと思ってたんですが、そういう資料はあるんでしょうか。それか28年度の実績報告のように29年度が終わってからこういう冊子になるのかなど。冊子になってからだと我々が意見を言おうがあまり影響はないのかとになってしまうので、今の段階でもう少し詳細な報告を聞かせていただければありがたかったかなということでございます。

【岩崎会長】

非常によく分かります。前回から資料の提示の仕方についてご意見をいただいております、この審議会も立ち上がったばかりですので、色々とブラッシュアップしながら進めていただきたいと思います。重要なご意見だったかと思っております。次回の資料作成に向けて、少しご検討いただければと思います。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【長濱委員】

ふるさと納税の事業の方ですけども、予算が4億くらいで挙がってましたけど、これは入る見込みを挙げていらっしゃるのでしょうか。

【事務局】

30年度の4億という数字については、実際に入る数字ではなくて経費としてかかる部分です。

【長濱委員】

経費とはどういう部分ですか。

【事務局】

実際にふるさとの寄附金をいただいて、それを歳入で受けるんですけども、その部分については一旦基金に積み立てておりますので、その入ってくる分については歳入側でみて、歳出側ではこの実際に積み立てる分も歳出予算としてみておりますので、4億のうちの純粋な経費というのはもう少し少ないというふうになりまして、大部分は積立として歳出側に計上しております。入ってくるお金を一旦歳入で受けて、歳出計上して積立て、積み立てた基金を取り崩しながら、実際に必要な事業に予算を充てていくと、そういうかたちの組み立て方をしております。ですから、4億については実際には歳出予算として使うものなんですけども、使う中身が純粋な直接的な経費の部分とそれと積み立てる部分を経費としてみています。

【長濱委員】

それともう一つ、前年度の7億くらいから4億くらいになっているということだったと思うんですけども、やっぱりそれだけボリュームが下がっているということですか？

【事務局】

寄附が頂ける見込みが下がってしまったということです。

【長濱委員】

ありがとうございます。

【岩崎会長】

他にいかがでしょうか。よろしければ次の議題に進めさせていただきたいと思います。(2)、(3)の議題は別々にご説明させていただく方がいいですか？それとも一緒にご説明頂いた方が説明しやすいですか？

【事務局】

一緒にさせていただいて、最後に皆さん自由にご発言いただける時間をとったほうがいいと思います。

【岩崎会長】

それでは一緒にご説明をお願いします。

事項書 2. (2) 志摩市創生総合戦略の改訂について

事項書 2. (3) 平成 30 年度【具体的な施策】の事業計画（案）について

(事務局より、資料 2、資料 3に基づき説明)

【岩崎会長】

ありがとうございました。ただいま平成 30 年度の総合戦略の改訂、それから事業計画案について説明を受けました。これからご意見を頂いていきますけども、今日この場でご意見をいただいて、30 年度の総合戦略や事業計画案に反映していただく余地はどれくらいあるのでしょうか。

【事務局】

予算については、今ちょうど議会で議論いただいていますので、内部側としてはそのかたちで進めていきたいというふうに考えておりますけども、例えば今日ご意見いただいて、こういうかたちにした方がより良いのではないかとか、こういうやり方もあるんじゃないかというふうに改善の余地があるのであれば、それぞれの担当部署もありますので、少しその辺りは相談させていただける余地はあるのかなとは思っています。

【岩崎会長】

ということです。予算の大きな枠はなかなか変えることは難しいと思うんですが、その枠の中であれば色々と工夫の余地を活かして、ご検討いただけるのではないかということでした。ですので、ただいまの改訂案、それから事業計画案についてここをこうしてはどうか、こういう見直しをもっと必要じゃないのか、様々なご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

【古賀委員】

全体的なことでは二点だけ、ちょっと思ったんですが、1つは外国人観光客誘致事業についてなんですが、志摩市の英虞湾を英語で言うとディープコーブみたいな感じになると思います。世界でディープコーブと言いますと、カナダのバンクーバーの横にですね、ハリウッドスターなんか別荘地を持つような湾があるんですけども、とても志摩市の英虞湾によく似ているところで。世界で唯一無二と言うか、後はもうひとつニュージーランドにもディープコーブと呼ばれる地域があるらしいです。そこで提案なんですけども、英虞湾をディープコーブジャパンという名前で位置付けて発信することで、ディープコーブで検索される外国人がポンポンとキーワード検索でヒットしてくるということで、そういう意味ではディープコーブジャパンというのを作っていただきたいというのが一点です。

それから、もう一点が人の確保のところ、若い女性が暮らしやすい志摩づくりとか移住者しやすい志摩づくり、若者との出会いとかに予算を色々と挙げられているんですけども、是非志摩市の若者の空気感と言いますか、知性と言いますか、そういったものを都会の女性とかの好みの男性に変える、と言うと失礼になってしまうんですけども、そういったような啓蒙活動とか都会

の女性の方のヒアリングであるとか、そういったことをして志摩市の若者は、実はどういうふう
に都会の女性と付き合ったらいいのか分からないという意見も聞いたことがありますので、是非
そういう若者が都市部の女性とお付き合いできるような、そういう勉強できるようなところに予
算を使っていたらいいと思います。

【岩崎会長】

あまり大きな予算の組み替え等を伴うような話ではなかったかと思いますが、担当課と少し
協議をしていただいて事業化できるものについては検討していただきたいと思います。ありが
うございました。他にいかがでしょうか

【前田委員】

先ほどからちょっと聞いてたんですけども、子ども達にふるさと納税の返礼品を作ってもら
うというのは駄目ですかね。材料はもちろん市が確保して、例えばひじきの煮汁を使った黒い鰹節
や猪の毛で作った筆とか、そういった返礼品に名前を入れてあげて、あとは海女さんのコスプレ
をしてしまさんと校舎内で撮影したり、そういったかたちで志摩高生が、「こんなやつたらで
きるわ」とか、3Dプリンターでスマホのカバーケースを作ったり。ちょっとした予算を入れて
あげれば作れるよという人がいれば、それをやってもらってというのはどうかなと思って。高校
生達に責任を負わせてやってみて、それで失敗したら失敗したで市が謝ればいいことなので。
高校生が、私達が作りましたと言え、目くじらを立てて怒る人もいないと思うし。アンケート
を高校生や中学生からとって、志摩市が好きですかとか未来がありますかとか、そんな質問ばっ
かりしてそれで終わっているようなので、一方通行だけなんです。高校生からしたら、「俺はこ
んなスマホのデザインをしたんや」とか、「こんなふるさと納税でいい案を考えたんや」とか、例
えば就職してから、もしくは起業してから絶対良い経験になると思いますので、そういったこと
を1つ検討していただければ、11事業者あると書いてあったので、12事業者目ということで。

あと、SNSで発信ということで、志摩市の職員の方がやってもらってると思うんですけども
多分 SNSの使い勝手が良いのは私とかもっと上の世代よりも、高校生が一番うまく使えると思
うんですよ。そういう方々にちょっとお願いして、一番上手かった人、一番良いアピールをした
人に先生なのか生徒会なのかが一万円の商品券とか図書券とかをプレゼントするとか。そんな
のほうがかもっと効率よく、もっとやる気があって楽しくできるんじゃないかなというふうに思
いますので、それをご提案させていただきます。

あと祭りなんですけども、色んな祭りがあるかと思うんですが、全部が全部じゃなくてもいい
んですけども、例えばなんかをちょっとずつ変えていってもらえるとありがたいなと思います。
例えばドローンが最近新聞で賑わっているわけですね。実は、私は祭りに最近の数年間行ってな
いんですね。なんでかって言うと同じ事ばかりやってるから。なので、例えばアオサ海苔の養
殖の棒をポールに見立てて、スタートしてから何分で戻ってこれるかとかね。海に落ちたら落ち
たで面白いし、それやったら出演料を1万円とって優勝賞金30万円にすれば、そんなに財政的負
担もかからないし。あと、綺麗な画像を撮った賞みたいなのを作ってしまっ、それを優勝商品
としてホームページに載せますよというようなかたちにしてあげれば、変な広告費を払うよりも
ずっとお金になるし、お金が安くなるし、それでそんなユニークな新しいことをやってみて、失
敗したらまたもう一回新しいことをやって、また改善するなら改善して、それを毎回マスコミに
連絡して、中京テレビぐらいが来てもらうくらいにして。そんなイベントをどんどんやっていっ

たらいいなと思いますけど、そういうのは難しいですか？

【岩崎会長】

なかなかこの中でお答えいただくのは難しいかなと。

【庄山委員】

今前田さんがおっしゃっていただいて、色々なアイデアをお持ちで素晴らしいなと思うんですけども、ひとつは志摩市の税金を投入するというところで、失敗というところは非常に行政としてはネックになるのかなというふうに思いますし。今お持ちのアイデアというのは、学生さんに色々な事業をさせてとか、それを経験に変える、それで創業であるとかということでありましたら、ここにあります、創業支援の枠組みの中でやって頂き、それをクラウドファンディングを活用していただくとか。クラウドファンディングの場合は、もし資金が集まらなかったら失敗というか、それに協調して頂ける方がいなければ、それが失敗ということになるので、誰も責任を負わなくて済むということになりますし。そういったところで、市の事業というよりもここにあります枠組みの創業支援というところでどなたかが立ち上げて、前田さんが立ち上げて高校生集めるとか、そういう事業にされた方が具体性があるのかなというふうに今のお話で感じました。

【石田委員】

高校生の話を聞いていて、そのふるさと納税の返礼品に拘らずに地域をアピールできるものとして、そういったものを高校生が市の職員と協力して開発して、facebook とかでアピールしていけば全体的に市のアピールにもなりますし。それによって、他の市の子達が興味を持って繋がっていくと思いますので、もうちょっと全体的な枠組みとして見ていければいいのかなというふうに思いました。

【齋藤副会長】

ちょっと情報として、すでに高校生がそういうビジネスプランとか商品を開発するという取り組みは全国的に行われておりまして、SBP、ソーシャルビジネスプランというふうに呼んでいるんですけども。今、本学の岸川教授とあって、相可高校の高校生レストランをプロデュースした人なんですけども、この人が中心になって、農水省と文科省と一緒に年に一回、夏休みに全国の高校生を集めてそういうコンテストやってるんですね。ですから、そういう枠組みも利用して頂いたらどうかなというふうに思います。

【前田委員】

高校生には早めに失敗してもらった方がいいと思ってるんですよ。成功してもらうのはもちろんいいんですけども、失敗してもらうのは非常に良いことだと思ってるので。責任を負わせて失敗して、そうすればリーダーシップというのは培われていくんだと思いますし。僕は正直言うとあまり小中高とそういう表舞台に立ったことがなかったので、自分の悔恨の意味も込めてお話しさせて頂きました。あと、もう一点言い忘れたんですけども、前に参加させてもらった時に 28 歳くらいで何か良いイベントがないかなと思ってたんですけども、あれからずっと自分一人で考えてたんですけども、スポーツイベントと言うか、記録会みたいなのを高校卒業して 10 年目の同窓会ということで 28 歳くらいで、文岡中学校とかちょっと高校のグラウンドを借りて、「昔の俺は

50メートルを7秒で走れたんやけど、今どれくらいで走れるかな」というふうなことを今の自分は非常に知りたいんですね。マラソンだったら別に計ってくれますけども。なかなかそういう握力を計ったり、走り幅跳びをしたりとか、そういう機会がないので高校の同窓会を兼ねてやってみて。その後に飲み会してもらってもいいし、一番体力があったヤングガイ、ヤングガールみたいな感じの賞を作って、なんか商品1万円くらいで図書券をあげてもそれは全然問題ないし。余っている施設だったらそんなに費用はかからないかなと思いますので。それと、スポーツすると心拍数が上がって、恋愛と勘違いするので恋愛効果にもいいかなというふうに思います。そういう出会いのきっかけを作っていたいただければと思います。

【岩崎会長】

ありがとうございます。28歳くらいの年齢の方のお話もありましたが、とりわけ高校生について色々ご意見を頂きましたけども、どの枠組みで事業を組み立てていけるのか、色々アイデアを出し合って、いろんな担当課を巻き込みながら、是非事業化を検討していただければいいんじゃないかと思います。ありがとうございました。他にいかがですか。

【岡委員】

私の方からもひとつなんですけども、市民代表ということで、自治会代表ということで出席させていただいております。そういった中で、この志摩市の総合戦略の中に何か抜けてるものがあるのかなというふうに思うところがあります。5ページなんですけども、町の活性化を低下させる4要素というのがここに書いてあるわけなんですけども、その一番下の働く場というところで事業を新しくしてくれる人の支援とか色々書かれていますけど、その中で企業誘致というのがひとつも書かれていない、難しいでしょうけど。ただ難しいだけでここに記載がない、それに対して努力がされないというふうなところで、非常に僕はここに違和感を感じております。それはどういう意味かと言いますと、確かに古い家を改造してそこへきてもらうというのは大事なことですけど、ただ僕が市民の中で聞いているのは、高齢化が進むにつれて、父親母親をこちらに置いて、名古屋とか東京の方で働く方がたくさんみえる、この地域は。そういった方で50歳ぐらいになって、親の面倒をみてあげたいので帰ってきたい、ただし働く場がない、これが一番の志摩市の人口が減る、また活性化しない要素だと思います。そういった要素でいったら働く場というのが一番大事なことです。もちろん事業を創生することも、新しくやることも大事なことですけども若い人達には。ただそういった方は、ここで生活するために少しでもお金が稼げなければ帰って来れない、都会ほどいらななくてもというのが、ひしひしと耳に入ってきます。そういった中で、この総合戦略の中に企業誘致と、難しいんだろうけどどんなかたちでもいいから、そういうことで活動するということがこの中に入っていないというのが非常に残念です。まずはその点、もしこれが入れるのであれば、そういったものを入れていただきたいなというふうに思います。

【岩崎会長】

これは事務局の回答ではなくて、私が審議会に参画させていただいての個人的な考えですけど、従来から市の総合計画とこの総合戦略をどうやってリンクさせていくのか、位置付けていくのかということが、課題としてあったなというふうに思っていました。昔、私は総合計画の策定委員になったつもりが、なぜかこの総合戦略の策定にも携わるようになった経緯がありまして、その両

方の審議をしてきたんですが、なかなかその位置付けが、議論してた当時はしていたつもりだったんですが、こういうふうなかたちになってみると見えてないんだと思います。ですので、総合計画の方を見るとおそらく企業誘致だとか、そういうことも書いてあるはずで、他方で総合戦略になると、おそらく定住人口、交流人口を増やしていこうという、民間の人も巻き込みながら今できることをやっていこうということを盛り込んだ戦略ですので、ここにはなかなかそういう中長期的にどうやっていくかっていうのは書き込みにくいのかなと。だけれども、どういうふうにしてそれが繋がっていくのかというのは、周囲の皆様にも見えるようなかたちで提示がされないといけないだろうなということも思ってます、多分その課題ではないかなと思ってます。ですので、なかなか総合戦略の性格としては、企業誘致のような事業は出てきにくいのかなと思うんですけども。他方で総合計画とどこでうまくリンクさせながら両輪で進めていけるのかという絵は市としても描いておかないといけないだろうなということで、少しそういうかたちの宿題を提示させていただきたいと思います。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【牧谷委員】

新規事業で御食国食文化展開事業というのがあると思うんですけど、ちょっと僕うまくしゃべれるわけじゃなくて、うまく伝わるかどうか分からないんですけど、なんか歴史とか食文化とかを掘り起こしてその価値を伝えるための事業だと思うんですけど。なんか僕が引かかるのが、その掘り出した結果、高付加価値化を図るっていうのが何か引かかって。付加価値を付けなくても、価値あるものじゃないのかなと思うので。元々価値があるものを掘り起こしてきて、高付加価値を付けてやっていくと思うんですけど、この付加価値が無くなった瞬間に本当に魅力があるものなのかと。

【岩崎会長】

ありがとうございます。事務局いかがですか？

【事務局】

御食国と昔から言われていて価値ある食材があるということで、ここで言っているのは、その背景であるとか歴史的なものとか、そういったものを勉強していくための場づくりをして、今ある価値をもっと高めていこうという、そういう取組みに繋がっていきたいということです。ちょっと分かりにくいと思いますが。

【齋藤副会長】

ちょっといいですか。一例を挙げますと、例えば万葉集の中に出てくる志摩の、歌の中では「伊勢の」というふうに詠んでますけど、アワビを詠んだ、白玉を詠んだ歌があります。これは真珠のことを言っているということなんですけど、そういったことがあると同じアワビでも三陸で採れるアワビと志摩で採れるアワビを比べたら、はるかに古くから志摩のアワビは高級食材として扱われてきたんですよということで差別化ができる。あるいは、古事記の中に、何でナマコに口があるのかという説話があるんですが、これもその中で志摩のナマコは、島之速贄（しまのはやにえ）といって特急便で都に送っていたんですね。そういうようなことが、ずっと千年以上に渡って、志摩の海産物が非常に高級食材として扱われてきたんですよということが売り出せるのかなと。そういうことを言っているのかなというふうに忖度したんですけども。

【長濱委員】

関連でよろしいですか。磯部の伊雑宮の御神田というのは非常に古いお祭りです。そういうようなところをもっとアピールすることによって、また倭姫様が穂落としとって、ここに天照大御神をおくことが決まったりとか。かなり食文化として古い歴史がありますので、そこを掘り起こしていくことによって付加価値を高めていくっていう。

もう一つ付け加えたいんですが、先日伊勢市長と会ってきたんですけど、そのときに伊勢市はお米を学校給食で100%地元産でやっていると聞きました。だから、志摩市も魚介類であるとか、お米であるとか野菜であるとか、数パーセントのことが目標に掲げられてましたけど、是非100%目指して一次生産者の収益をもっと上げれるように、そういうふうな取組みでやっていただけたらなと思いました。

【事務局】

さきほど、御食国のお話もしていただいたんですけど、その食材に関しては世界がどういったものを求めているかを、冒頭の市長の挨拶の中にもSDGsというような話もありましたが、その海女さんの漁場を守って、禁漁時期、禁漁区を定めて取り尽くしてしまわない、大事にこの地域の高級食材を皆で守ってきた。法律じゃなくて、自分達で守ってきたと。そういう持続可能性の高い食材等に関して世界からも非常に、今環境への配慮とかも含めてですね、注目が集まっています。そういうような中でですね、伊勢えびの話も冒頭ありましたが、そういうところでストーリーを描きながら志摩はこうやっていいものをみんなで守ってきて、ずっとそれを受け継いできたんだよというお話の中でですね、価値を高めていくと。そういうようなことを検証しながら、それを使いながら、それを外に発信しながら、というようなことをさせていただきたいなというようなところでございます。

【城山委員】

よろしいですか。私が喋るとまた皆さんみたいな大人しい言葉でなかなか喋れないんですが、ちょっと言わせてもらおうと、今の美し国、この辺に関してもやっぱりそれはそれで昔から引き継いできたものだから大事だけど、人間も一緒に人づくりもその地区地区の文化を壊してしまわないと絶対に人づくりはできないと思います。私は自分がやってるから言うんだけど、実際に実績を上げるとし、その中でいくと皆さんはこれまで説明を聞いていると素晴らしいと思うよ、作ってもらってるものも含めて。だけど何て言うか、志摩市の職員も地域に入って、ひとつ山、ひとつ川が変わると生活も言葉も全部違うんです。こういう文書を作って、それに当てはめようと思ったらやっぱり職員もそれぞれの地区に行き、そこの勉強から入って、それから作ったものをこうしていく、この地区はこうしていく、そういうものがなければこれは絶対に人づくりも何もできません。私のところは外湾漁協やけど、今度尾鷲まで合併しますけど、実際に私のやってることが皆さんできません。なぜできないかという、そこの地区の昔からある決め事、これが破れないの。どうしてもこの文化が邪魔するんです。そういう面で行くと、人づくりも今の美し国も私は今まで年寄りを6人くらい六次産業化の初めみたいなかたちで今やってるんですけど、なかなか思うようにいかない。そんな簡単なもんじゃない。そういうのも全部含めて、ここにもこのあいだ市議員さんが私のところへ来て色々話を聞いてくれたけど、塩竈の市議員さんも6人ほど研修に来てくれたけども、それ以上に山口県とか石巻市、色々な所から来てくれる

けど、何が出来ないかと言うと、人づくりが一番難しい。どうして作ってるかって言うと今そこにあるわけです。今まで良かったその地区の文化が全部邪魔してて、人づくりに乗って行かれないんです。だけどそれを無くしたらいいもんじゃないけど、やっぱりその人らその人らが、若者が手を入れてその時代に応じたものを私の教えの中で、そういうふうに教えております。だってその地区に来て、若者が私のところに来て、こうしろって言ったって無理な話なんで。やっぱりこれから受け入れするんであれば、若者の仕事のしやすいように。正直言うと私9人、もう志島に入っております。この畔志賀漁師塾は18人おります、県外から。それも皆30代40代。もう志島に至っては3人結婚して子どももできました。だけど、去年東京から来た子が結婚してその子だけが1名子どもを産んでくれた。皆さん色々考えとるかもしれんけど、私がこの10人にして75歳なんで、あと10年の間にこれで10人で切ると、しかし漁師が一人減ったら補充するなら補充するで、あと10年の間に20人に増やしたい。その時になると私85歳になるんで、それを見て死にたいなと。この志島というところは、多分日本のモデルになるでしょうなと。今700人居るのが10年経ったら500人切るわけだから。頼むでそれを増やして、20人になったら子どもが何人増えてるかなと、それを考えた時には日本のモデルになる村を作るでしょう。その姿が10年先なんで実際に完成するか、生きたいなと思います。そういうものであって、物もすべてそういうものであって、そのままでは何も、美し国でも伊勢でも何でもいいけど、その時代の若者が手入れして作って欲しい。それにはどうしていくっていうのは市の職員もそういうのは地区に入って、それぞれの地区の言い方が違うし、考え方が違うし、皆それを勉強してくれないとただこんなもの作って、素晴らしいけど私聞いているけど。難し過ぎて頭が痛い、正直言って。そういう感じです。

【岩崎会長】

ありがとうございます。少し作文も考えましょね。今おっしゃって話はすごくよく分かるんですけど、それが高付加価値化という言葉でピンとくるかって言うと、少しイメージと結びつくものが違うようなところで議論が生まれたんだなという気がします。今のお話と市がお考えになっている方向とは、そうズレはないと思いますので、それをうまく表現できるようなかたちを皆さんのご意見を頂きながら、考えるかたちでご検討いただきたいと思います。ありがとうございました。

【東川委員】

いいですか。1-7の大学等との連携による人材育成推進事業を新規で入れたいというお話があって、先ほど岩崎先生の方から冒頭に、発言したところがどれだけ反映されますかと言っていただいて良かったんですけど。ちょっと正直なことを言うと、この事業は本当にいるのって思ったんです。大学との連携というんですけど、人の育成という基本目標としては、ここにも書かれているように「志摩市の自然・文化・伝統に誇りを持ち、それらの多様性を守り、生かせるひとを育成する」という人の育成の基本目標があるのであれば、育むべき人材って大学ですか？志摩市にない大学の人材を育むのって、なんかちょっと違和感があるなと思ったんです。平成30年度といえ、志摩市の学校再編計画で新しい小学校が誕生するっていう、その小学校の子ども達っていうのをもっと育てていくべきじゃないのかなと思ったところがあって。志摩市に貢献できる人材育成というのであれば、その子ども達が地域のことを自然・文化・伝統に誇りが持てるような事業、それが地方創生に繋がるんじゃないかなと思うところがあるので。この事業とか、大学とか連携とかたくさんあるんですけど、もっと目を向けるべきところは地域の子ども達を育むところ

じゃないのかなというふうに思ったので。この事業を読んで、学びの場として志摩市を活用した大学生の数が年間 20 人以上と書かれているんですけども、学びの場を志摩市として活用しているのは地域の子も達であるので、この事業をやる成果っていうのが正直見えてこないような気がして。なんか大学生って言うと、ある程度自分達の子どもの頃から色々勉強してきて、大学の先生の前でこんなことを言うのもあれなんですけど、ある程度自分達の目標とするべきものを持って大学に行っていると思うので、なんか志摩市のことを本当に考えてくれる人材が育成できるのかなっていうところがあって、私もそうだったんですけど、小さい時にこんなに地域の人と関わり合いながら学校で学ぶっていうことが少なかったなと思って。立神小学校の校長先生が今いらっしゃるんですが、立神小学校とかは地域の人達、地域産業である真珠について学ぶ授業があって、核入れから玉出しまでやって、出した真珠をアクセサリにして卒業式に付けて、卒業式に出るっていうことをやられている。それで、それをやることによって立神小学校の子も達ってすごく地域に対する愛というか自分達の地域って素晴らしいんだって誇りに思っている心がすごく強いのが感じました。私の地元は安乗なんですけど、それぞれの地域の子も達がうちの会社に見学に来てくれた時に訊くんです。自分達の地域って大好きですかって言うと、そうすると大体私の小さい時の感覚からいうと、田舎だし都会に憧れるところがあって、地域を好きって思う気持ちは少なかったんですけど、今の子も達って、訊くと自分達の立神が大好き、越賀が大好きってというふうにみんな答えるので、そうやって答えられる子も達が生まれているというのは地域の人との交流があって、育ってきてるからかなと思うので、そういった子も達を大事にすることが地方創生に繋がるっていうふうに思うところもあったので、こういった大学等の連携の事業っていうのはすごく大事だと思うんですけど、平成 30 年度にもうちょっと目を向けるべき事業って、違うところにあるんじゃないかなというふうにちょっと思ったので。すいません、やることに對してどうかって言うんじゃないんですけど、もうちょっと小さい子も達、中学校とか高校とかというところの事業はあるんですけども、もうちょっと小さい子も達に対する、地域って素晴らしいところなんだよ、志摩っていいところなんやよっていう、本当に地方創生の核となる地域を誇りに思うとか地域のことを自慢できるっていう知識とか、そういった人との繋がりとかが地域産業について学ぶ場というところをもっと事業として作り出していくことが人材育成というところで大事なところなんじゃないかなと思うので、その辺ちょっと何か取り組めることとかがあればいいんじゃないかなと思います。

【岩崎会長】

ありがとうございます。事務局、いかがですか。

【事務局】

おっしゃる通りです。地元の子も達が地元のことが好きで、そのことによって出ていっても戻ってくるとか、あるいは外にいても地域と何らかの関係性を持って、ずっと志摩が残っていくようなかたちを作っていくための取り組みなので、おっしゃられる通りですね。大学との連携というのは、人を作っていくためのひとつの側面であるというふうに理解しています。人を作っていくための方法っていういろいろあると思うんですけども、外から入ってくる人達、特に若い方々の意見を聞きながら、地域を作っていくというのはひとつの側面として大事だという意味で今回位置づけさせていただいたということです。今、東川さんが言われたように中学校にも 2 回くらい行って、実際に子も達と話しながらやっていくと、志摩のことがすごく好きやと言ってくれ

る子がいっぱいいるし。牧谷さんとかトマト農家の話を聞いて、地元であんなことをやっている人がいるんやな、すごいんやなっていう声もいっぱい聞いて、やっぱりそういう生の声を僕らも聞きながら、やっぱりそういうことは続けていきたいという中で、確かに小学生に対しての視点というのは今の現状では少し何も入っていないようなかたちにはなってるのかなというところもあるので、もう少し中学生や高校生という取り組みは今やっていますけども、小学生にももっと目を向けるっていう視点はいるのかなというふうに思います。

【城山委員】

今の話じゃないけど、この間埼玉の大学から、先生が付いて生徒を6人ばかり連れて志島に来てくれたんで、志島の海を提供するで、住むところもきちっと用意しますんで、志島を研究してくれないかという願いをしたら、お金がかかってとてもじゃないけどできませんという答えだったんだけど、金の支援は私らもできませんと、だけど三重大の生徒でも三重県の大学の生徒でも私らは受け入れするで。まだ志摩の海は真珠だけじゃないと思うし、宝石はまだどっさりあると思う。ただ、私達の漁師は物を取ることにしか知らないんで、そういう海にどんな宝石があるのか、取ってきててもどういう成分があるのか、そういうことに関して分からないんで。まだまだ夢も希望もあるとこだと思うんで、先生達も大学の生徒にそういう希望があれば私は喜んで受け入れるんで、是非お願いします。

【岩崎会長】

ありがとうございます。時間もだいぶ経ってききましたが。

【井上委員】

その他でよろしいでしょうか。

【岩崎会長】

いいですね。時間もだいぶ経ちましたので。

事項書2. (4) その他

【井上委員】

先ほどから子どもを育むとか、学校給食とか出てきましたんで、先日「平成30年2月 保護者の皆様へ 志摩市教育委員会 教育総務課 学校給食センター所長 入学式・卒業式当日における学校給食の有無の統一について 平素は、学校給食センターの運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、現在、始業・終業式当日においては、すべての学校で給食の実施を見合わせておりますが、入学式・卒業式当日においては、希望する一部の学校に提供しています。しかし、昨今の野菜価格の高騰などにより、限られた材料費のなかで運用することが非常に厳しい状態であることや、各校に給食の有無が異なるのは不公平であることなどから平成30年3月の卒業式より、すべての学校において、入学式・卒業式当日の給食を実施しないことで統一させていただきます。子ども達の健やかな成長のため、これからも安全・安心で栄養バラ

ンスのとれたおいしい給食を提供できるよう努めてまいりますので、保護者の皆様のご理解をよろしくお願いいたします。」という通知書が来ました。これはとても子育て世代のお母さんにとっては悲しいお知らせです。今まで給食が2日あったのが、この紙一枚で無くなってしまった。今これを見るとすごく予算を上げて中身を良くしようとしているのに、どうして減らすのか。今ひとり親家庭で本当にお金がなくて、子ども達に土曜日は何を食べたかと訊くと、カップラーメン、おにぎり一個です。だから、この前も国会議員の福島瑞穂さんが言っていたじゃないですか、子どもに1日1回カロリー計算をした食事を食べさせないといけない。だから、紙一枚で簡単に減らしてしまう、これが今の竹内市長のやり方なのかなと思いました。だから、減らすんじゃなくて、なんとかして入学式、卒業式に今までやっているのを継続していくというかたちはどうしてとれないのだろうと。誰も保護者は声を上げない、志摩市の人みんな大人しい、今の若い子育て世代のお母さんは給食で助けられています。給食がなかったら子育てできません、みんな働いているから。土曜日なんかみんな仕事に行かないといけない。だから子ども達の給食が無いと昼ごはんが無しなんです。だから、こんなにして卒業式や入学式に今まであったものを無くしてしまうのは本当に悲しいです。それを私は言いたくて、今日は津の方で会議があって、それで遅れてきたんですけども、これが言いたかったので出席させてもらいました。市の方でこれを議事録に残しておいて欲しいんです。

【岩崎会長】

はい、地方創生と直結するものではないですが。

【井上委員】

この給食の話が出てきましたので、中身を良くしようと、予算を上げて。そういうことが出来るんであったら、なんで今まであったものを無くすんだろうと思って。

【岩崎会長】

重要なお発言ですので、議事録には残させていただきます。ありがとうございます。

【寺口委員】

ちょっとだけ言わせてください。1-3の事業（がんばる市民を応援する事業）なんですけど、事業内容が変わっているんですよ、29年度から30年度に向けてね。総合戦略の改訂版には載ってこないんですが、これの説明ですね。それと全体的な事業の進捗なり、呼びかけなり、奨励金なり、助成金なり貰えるのは市民の皆さんにどのようなかたちでフィードバックされるのかを聞きたいなど。まあ時間もないので別にいいですけど。

【岩崎会長】

じゃあ、ご意見はきちんと承る内容だと思いますので、こういった皆様からのご意見だけ伺ってにおいて、回答については必要であれば、別途書面で回答していただくというのでよろしいですか。じゃあ、ご意見だけ恐縮ですが承りたいと思いますので、よろしくお願いします。

【長濱委員】

その他ですけども、まず一点目は先ほどのお米のこととも関連するんですけども、2,000年前の

大和姫様をもうちょっと掘り起こしたらどうなのかなということ、伊勢市長にもどうかっていう話をしたら、提案してくれるんなら乗っかりますと言うようなこととして、松阪からずっと京都から、かなり長い範囲で連携してそういうような観光として確立できるんじゃないかというふうに思ったので一つ提案させていただきます。あともう一点は、審議会の運営の仕方についてですけども、やっぱりもう少し早めに、予算も決まってしまうというところじゃなくて、もう少し前に開いていただけるとありがたいかなと。そしてさらに、その前にせっかく審議委員がおりますので、有志の方で別にお金は要らないので、一回話し合うような場を持っていただくと、もう少し議論も深まったりするのかなと。さらに踏み込めれば、審議委員が中心となって市民の方々にもこういうふうな素晴らしい色んなことをされているので、それを市民の方々にもしっかりと提案して、市民の方々の意見も聞いて、ブラッシュアップしてここへ持って来れるような、そういうような一連のシステムができればどうかなという提案です。

【岩崎会長】

ありがとうございます。それも含めて考えさせてください。

【前田委員】

ちょっといいですか。社会的変化でですね言うだけですけれど、AIによって労働場所が減少しているということが考えられると思うんですけど、こういうものが増えてくると買い物がネットでっていうかたちで、どんどんどんどん増えてくと思うんですよ。そうすると、とくし丸みたいにぐるっと車が回るっていうのが、たぶん今採算がギリギリだったとしたら、10年後にはかなり厳しい状態になると思います。そういうかたちに対して、逆に高齢者の方にネットを使うように教えていくような仕組みを作った方が早いんじゃないかなと、というのがひとつ。あと、運転が10年後にはひよっとしたら自動化してる車が半分くらいに増えてきたとしたら、仕事場まで寝ていて車で着いていたということになったら、あんまり仕事に関するストレスっていうのが、時間的なものもありますが、運転しなくていいなら、雑誌読んでいたり何してもいいし。ですから、そういうかたちでの10年単位、20年単位でのビジョンを市役所がどう考えているか、その2点だけ後で教えていただければと思います。

【岩崎会長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【岩田委員】

よろしいでしょうか。先ほど東川委員さんが言っていたような事なんですけど、小中学校の代表として言わせていただきたいと思います。統合が始まって、本当に校区が広くなりました。地域の産業を大事にする、その地域のことを大切に思う小学校の時代、それから中学校にかけて学習するのは本当に大切なことだと思うんですけども、それは校区が小さくて、ある程度密着した関係の中で出来てきたものが多かったんですが、大きな校区になってもそれがあ程度可能なように、例えば移動の手段ひとつにしてもやはりお金のかかることなんです。今まで里海の方でいろいろと助けていただいたりとかしていただいているんですけども、そういったあたりも充実していただきながら、自由に校区でそういったことが吸収できるような体制を整えていただいたりとか、本当に地方を作っていくための一番元の小学生から中学生、本当に純粋な時に自分の地

域の良さを丸ごと分かると言うか、そのための本当に予算的な支援だとかそういったことも十分お願いしたいと思います。子ども達が育っていく基盤として、そういったことがあるとありがたいなと思いますので、こうした計画の中のどこかにそれを反映していただけるとありがたいと思っています。

【岩崎会長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。最後は時間が少なくなって申し訳ありませんでした。頂いたご意見に対する回答については、書面にさせていただいて委員の皆様にお渡しいただくようなかたちで共有を図っていただければと思います。よろしくお願いたします。では、本日の議事は全て終了しましたので、ここで進行を事務局にお返ししたいと思います。

【事務局】

ありがとうございました。その他として、事務局からご報告がございます。一点だけ、人口ビジョンなんですけど、ある程度数字の追加とか終わってるんですけども、もう少し確認してから皆様にお示ししたいと思いますので、また出来次第お渡しさせていただくようなかたちでお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

長時間に渡り、ありがとうございました。それでは、これをもちまして第2回の地方創生審議会を終了させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

以上